

自然換気住宅

仕組みを紹介

地下街でパネル展

省エネの自然換気で居住性が高い住宅「パッシブ換気住宅」を紹介するパネル展が1日、札幌市中央区の札幌地下街オーロラタウンで始まった。

パッシブ換気とは、暖気が自然に上昇する対流を利用し、住宅内の空気を入れ替える仕組み。北大や道などが技術を生み出し、1999年に工法をマニュアル化している。道内の建築関連業者でつくるNPO法人パッシブシステム研究会(札幌)が普及を進めようと今

応募できるのは市内の事業所、組合などの団体で、5人以上の受講が必要。研修は約2時間で、段階に応じ6

た。閉鎖中に市が散策路を3度調べたところ、ヒグマのふんや足跡などが見つからなかったため。



パッシブ換気住宅の仕組みなどを紹介したパネル展

換気の仕組みを紹介した図や住宅の施工例の写真などを掲載したパネル12枚を展示してい

しい北国に適した技術をせひ知ってほしい」と来場を呼びかけている。21日まで。

市内最高齢109歳

横田さんが死去

札幌市内で最高齢だった厚別区厚別中央1の2、横田要蔵さんが1日、心不全のため市内の病院で亡くなった。109歳だった。市高齢福祉課によると、横田さんの死去により市内最高齢は108歳の女性になった。男性の最高齢は106歳。

回、パネル展を企画した。

る。同研究会理事で、1級建築士の佐藤芳郎さん(58)は「寒さが厳

会場には、パッシブ

道によると、昨年9月1日現在の道内最高齢者はオホーツク管内